

文京区アカデミー推進計画 | 第2回協議会
分科会の進め方について

■分科会のパターン

(1) 会議形式A

- ①事務局が資料説明を行い、協議の前提となる情報を共有する
- ②進行は座長が行い、挙手に応じて発言者を指名する
- ③議題は事務局が用意し、それに沿って各委員が自由に発言する

(2) 会議形式B

- ①事務局が資料説明に行い、協議の前提となる情報を共有する
- ②進行は座長が行い、挙手に応じて発言者を指名する
- ③議題・発言のガイドラインは事務局で設定し、それに沿って各員が発言する
ex. 「課題を述べる場合は、背景・解決案を合わせて話してもらいたい」等

(3) ワークショップ形式

- ①事務局が資料説明に行い、協議の前提となる情報を共有する
- ②ポストイット等のツールを用いて、全員が一斉に意見を書き出し、模造紙等に貼る
- ③事務局が用意したテーマに沿って書き出してもらう
ex1. 「●●分野の強みと弱み」「●●分野の課題」「課題の解決案」「事業案」等
ex2. 「分野別目標について」「現状と課題について」「基本的な方向性について」等
- ④座長が中心となってポストイットの意見を整理する
- ⑤ポストイットを見ながら、書いた人に補足の意見を促しながら議論を整理する

(4) ワールドカフェ形式

- ①事務局が資料説明を行い、協議の前提となる情報を共有する
- ②グループに分かれて、自由に意見を出し合う
(全体の進行は座長、グループごとの進行は委員代表、板書は創建)
- ③協議のアウトプットは事務局が指定し、それを目指して自由に協議する
ex. 「●●分野の課題と解決案」「区民目線での期待と懸念」等
- ④発言は適宜ホワイトボードに書き写す(ポストイットを貼り付けるのも有)
- ⑤協議後、各グループの意見をまとめて報告し、全体で共有する
- ⑥各グループの意見を座長がとりまとめ、意見を整理する

■分科会のパターン(案)

- 第1回分科会 計画の評価:会議形式B/特徴や課題の検討:ワークショップ形式
- 第2回分科会 理念・目標・基本方針、取り組む方向性:ワールドカフェ形式
- 第3回分科会 解決の方向性、体系の項目:会議形式B
- 第4回分科会 事業案、骨子案:会議形式B

■分科会のパターンと協議内容の関係

	会議形式A	会議形式B	ワークショップ形式	ワールドカフェ形式
長所	<ul style="list-style-type: none"> ・ 議題すべてについて満遍なく話すことができる ・ 自由に発言できるため、各委員にストレスが少ない ・ 会議で結論を出すことも可能 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 議題すべてについて満遍なく話すことができる ・ 委員はややストレスを感じるかもしれないが、発言の脱線が少なくなる ・ 会議で結論を出すことも可能 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 全員が自分の意見をアウトプットすることができる ・ 相反する意見も気にせず発表することができる ・ 結論は事務局が持ち帰ることができる 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 気軽に意見を発しやすい ・ 結論は事務局が持ち帰ることができる
短所	<ul style="list-style-type: none"> ・ 声の大きな委員の意見にテーマや協議内容が偏る可能性がある ・ 会議の場で結論を出すケースも考えられ、事務局の意向が反映しにくい 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 会議の場で結論を出すケースも考えられ、事務局の意向が反映しにくい 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 進行役となる座長に負担がかかる ・ 意見が出ないテーマが発生する可能性があり、議題が積み残される場合がある ・ 会議で結論が出しにくい 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 進行・書記・報告役となる人次第で協議が拡散する可能性がある ・ 会議で結論が出しにくい
第1回のテーマ ○計画の評価 ○特徴や課題の検討	<ul style="list-style-type: none"> ・ 計画の評価には適している 	<ul style="list-style-type: none"> ・ブレインストーミングのように進めると、特徴・課題の抽出には適している 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 特徴・課題の抽出には適している 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 計画の評価には適している
第2回のテーマ ○分野ごとの基本理念・目標・基本方針 ○取り組む方向性	<ul style="list-style-type: none"> ・ あまり適さないと考えます 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 取り組む方向性の協議には適している（分科会である程度の方向性を決定） 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 取り組む方向性の案出しには適している（結論は事務局持ち帰りが前提） 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 理念、目標、基本方針など、概念的な内容の協議には適している（結論は事務局が持ち帰りが前提）
第3回のテーマ ○解決への方向性 ○体系の項目	<ul style="list-style-type: none"> ・ あまり適さないと考えます 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 解決への方向性の協議には適している（分科会である程度の方向性を決定） 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 解決の方向性・体系の項目の案出しには適している（方向性は事務局持ち帰りが前提） 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 解決の方向性の協議には適している（結論は事務局持ち帰りが前提）
第4回のテーマ ○事業案 ○骨子案	<ul style="list-style-type: none"> ・ 骨子案の文章に関する協議には適している（変更箇所の指摘にとどまる可能性は懸念される） 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 骨子案の文章に関する協議には適している（どのように変更するかまで意見をいただく） 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 事業案の案出しには適している（結論は事務局持ち帰りが前提） 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 適さないと考えます